

古川橋駅周辺エリアの  
まちの未来を考える  
勉強会

2024年3月21日

# 目次

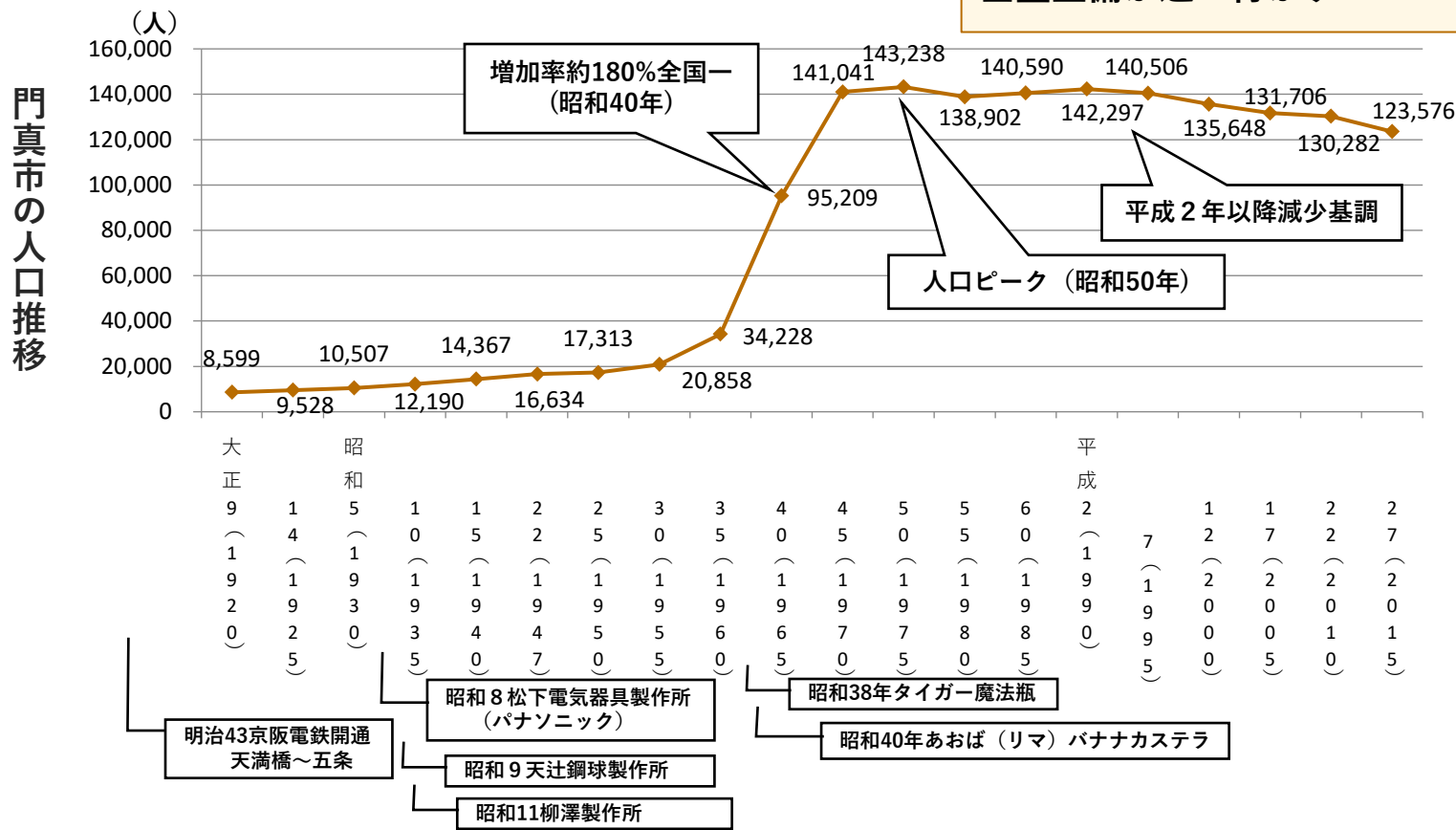
1. 古川橋駅周辺エリアのまちの成り立ち
2. 古川橋駅周辺のまちづくりの紹介
3. まちづくり事例の紹介  
「空き家の利活用～がもよんモデル～」
4. 質疑応答・フリーディスカッション

# 1. 古川橋駅周辺エリアのまちの成り立ち

# 高度経済成長期に形成された密集市街地

- 都心に急激に流入した人口の受皿として急速な市街地の形成  
利便性の良い京阪沿線に密集市街地の形成
- 高度経済成長を支える産業の定着  
家電産業を推進力として発展

昭和35年から5年後、人口が約3倍に  
昭和35年からの10年間で約11万人急増  
基盤整備が追い付かず

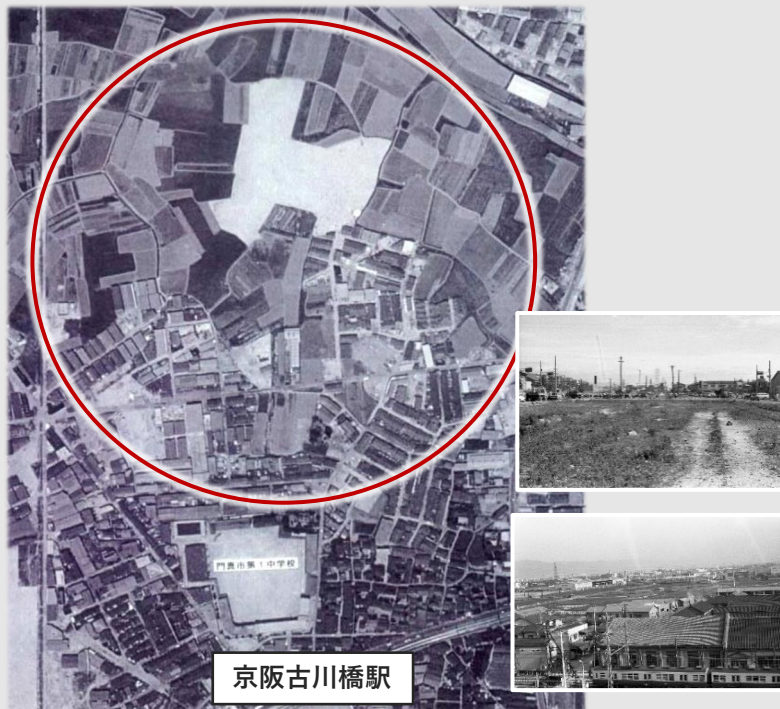




## 高度経済成長期に形成された密集市街地

- 昭和39～46年の7年間で、田畑が木造賃貸住宅地に様変わり
- 京阪鉄道沿い(国道163号以北)で密集市街地が形成

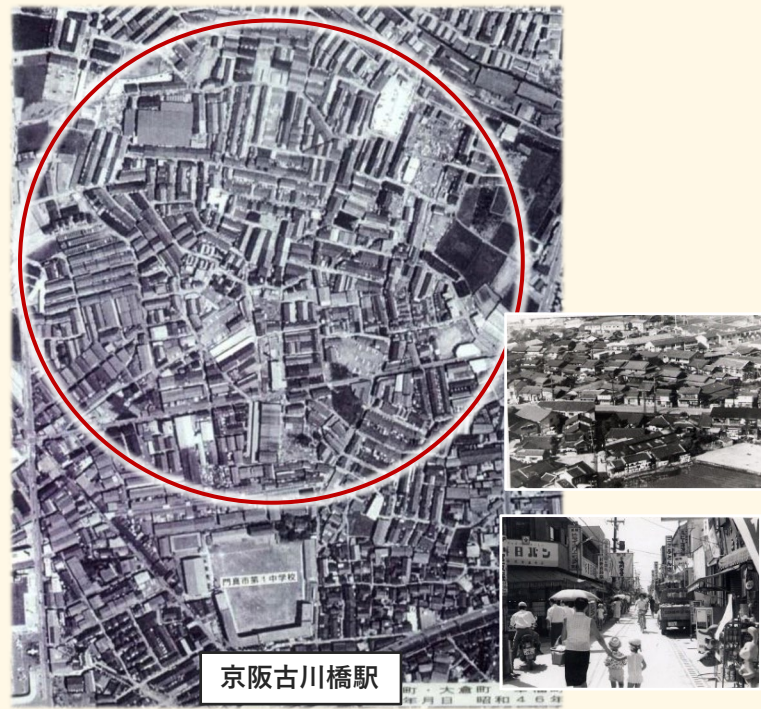
昭和39年



高度経済成長期が始まった昭和39年頃は、京阪古川橋駅周辺に市街地が見られるものの、北部は田園風景が広がる地域であった。

7  
年  
後

昭和46年



昭和46年頃には、田畑のあぜ道が少し拡幅され、ビッシリと住宅が建ち並び、密集市街地が形成されたのが確認できる。

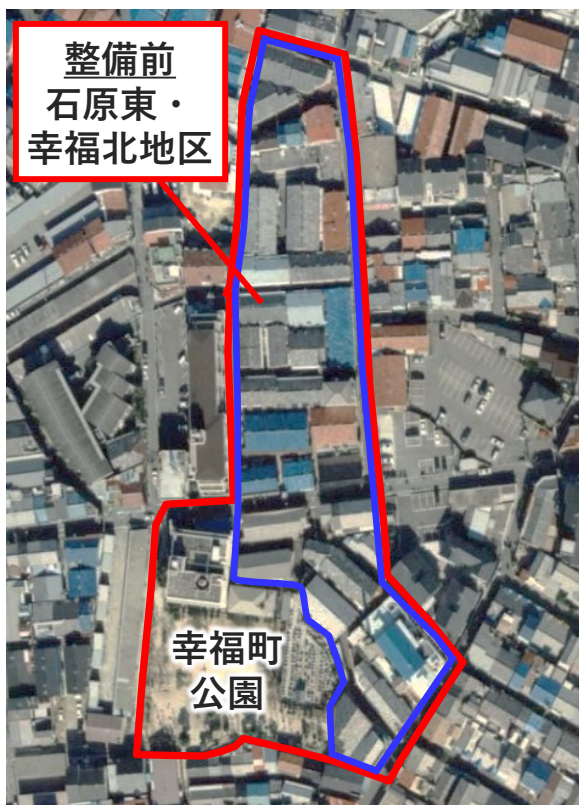
→ 現在、築50年前後の建物が立ち並ぶ



## 区画整理等の取り組み事例【石原東・幸福北地区/石原東・大倉西地区】

- 木造賃貸住宅等が建ち並び、狭い道路が多く、防災上や居住環境上で課題があった2地区を整備
- 耐火建築物の建設や、公園の整備、幅員6mの道路を設けるなど、防災性、居住環境が良好なまちへと生まれ変わった

平成7年度



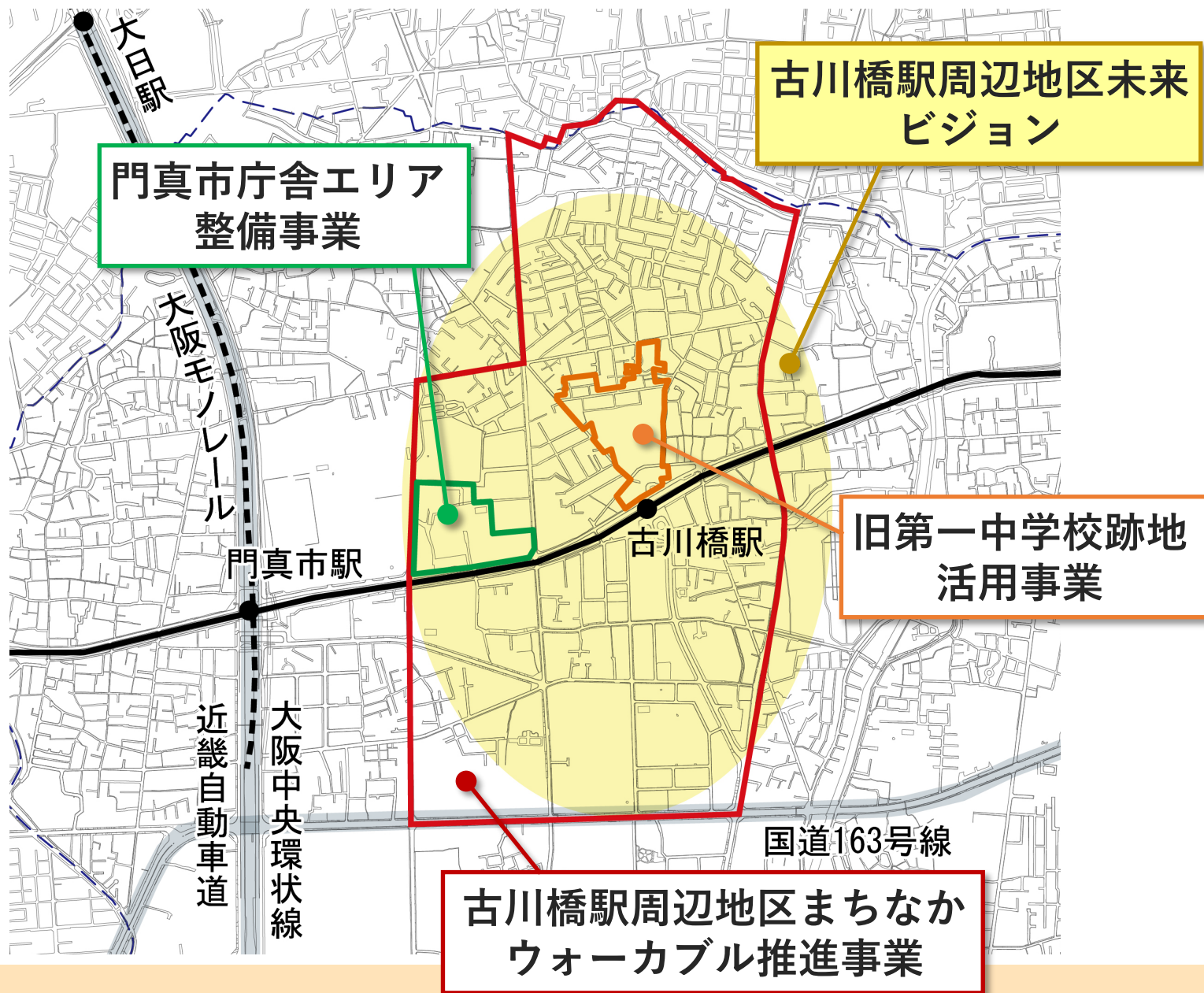
平成17年度



平成28年度



## 2. 古川橋駅周辺のまちづくりの紹介

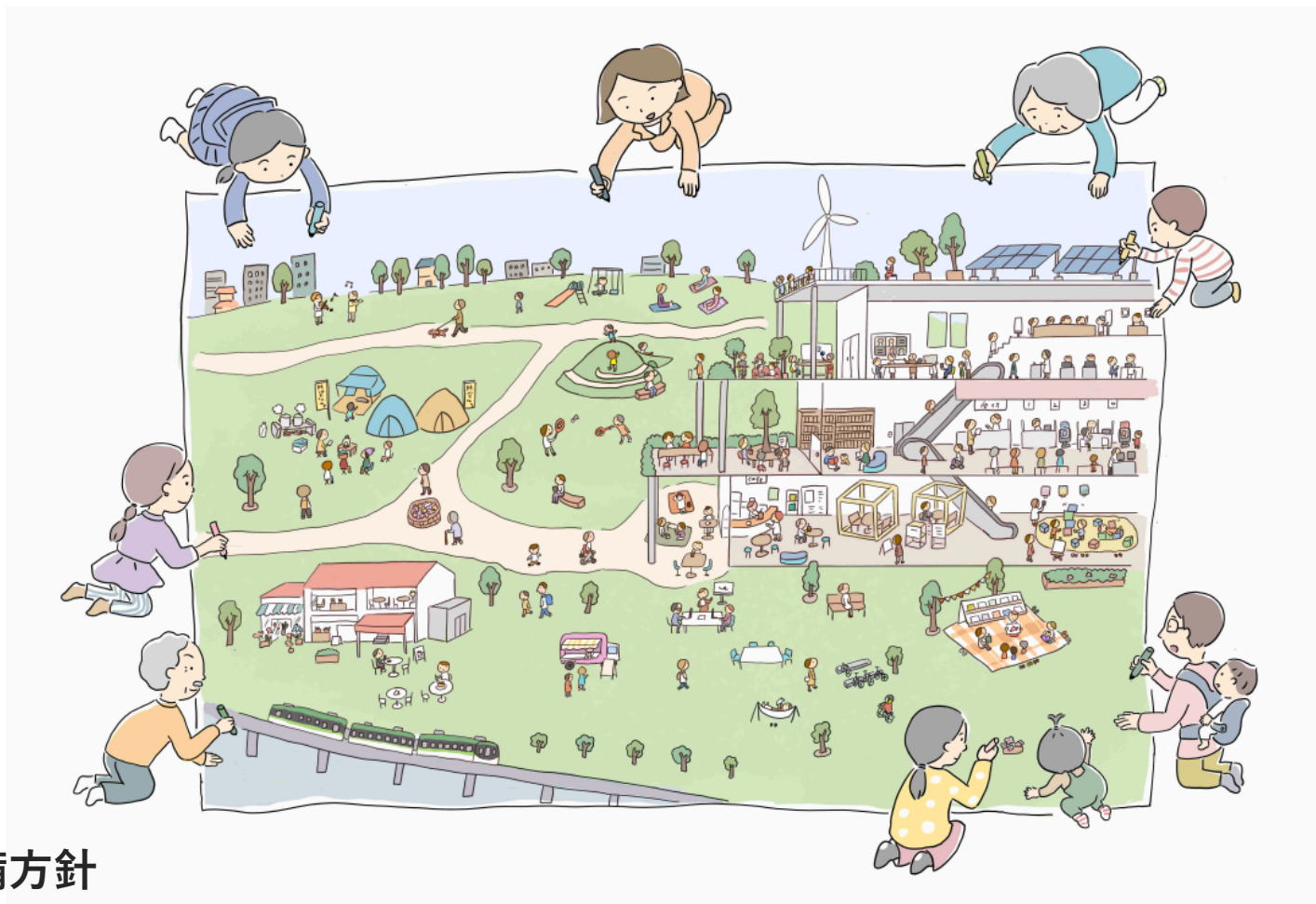




# 門真市庁舎エリア整備事業

# 庁舎エリアのコンセプト・整備方針

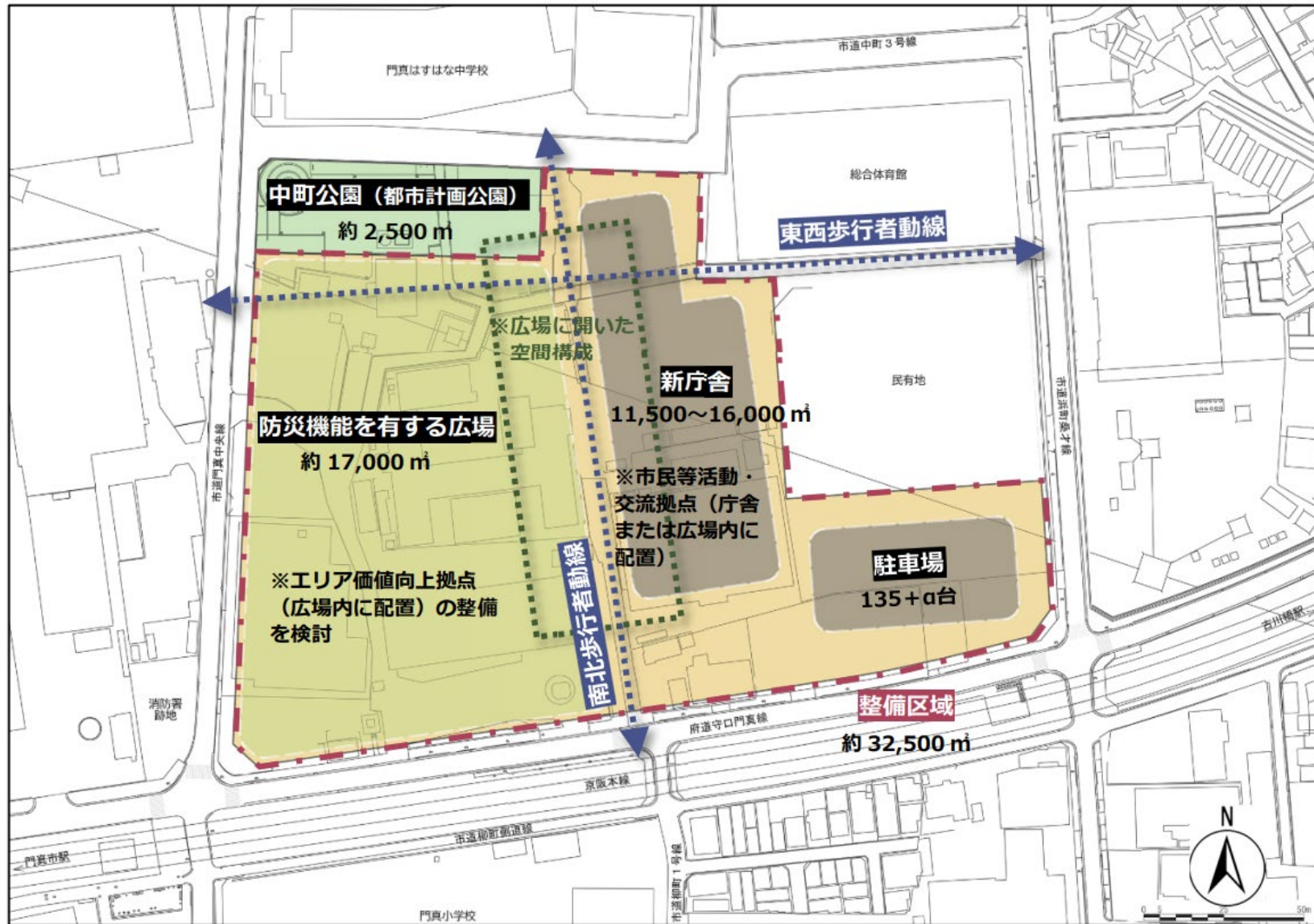
「みんなで描き、みんなでつなくこのまちがキャンバスに」



## 整備方針

- (1) 多様な利用を促す開かれた拠点
- (2) 新たな働き方と公民連携
- (3) 防災・持続可能性
- (4) 周辺との連携・波及

# 整備内容及び施設配置のイメージ



# 旧第一中学校跡地活用事業について



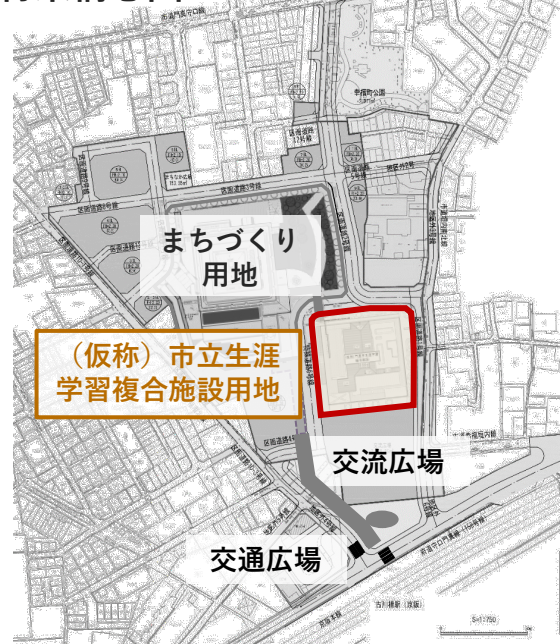
# 将来構想図



※この将来構想図は、区域外地権者用地等も含んでおり、地権者の合意状況や関係機関等との協議により変更が生じる可能性がある。

# (仮称) 市立生涯学習複合施設

将来構想図



※この将来構想図は、区域外地権者用地等も含んでおり、地権者の合意状況や関係機関等との協議により変更が生じる可能性がある。

## 【スケジュール】

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
基本設計		実施設計・建築工事		

※本スケジュールは予定であり、変更になる可能性があります

- 多くの市民が自主的・創造的な文化・学習活動を行えるよう支援する施設
- 市民の自律と協働を促し、多様な活動を通じて、地域の新たな出会いと交流の創出、地域コミュニティの活性化を図る場

市民の文化活動を盛り上げる新しいランドマーク  
「スパイラルガーデン」



外観イメージ (株式会社遠藤克彦建築研究所提供)



# まちづくり用地（タワーマンション等）

将来構想図



※この将来構想図は、区域外地権者用地等も含んでおり、地権者の合意状況や関係機関等との協議により変更が生じる可能性がある。

- 門真市内No.1の大規模・タワーマンション
- 「賑わいの輪」と「学びの輪」の2つの広場と「交流の軸」を設け、人々の回遊性を生み出し、商店街との共存・まちの賑わいを創出

地上41階  
高さ約138m  
全652邸



## 【スケジュール】



※本スケジュールは予定であり、変更になる可能性があります



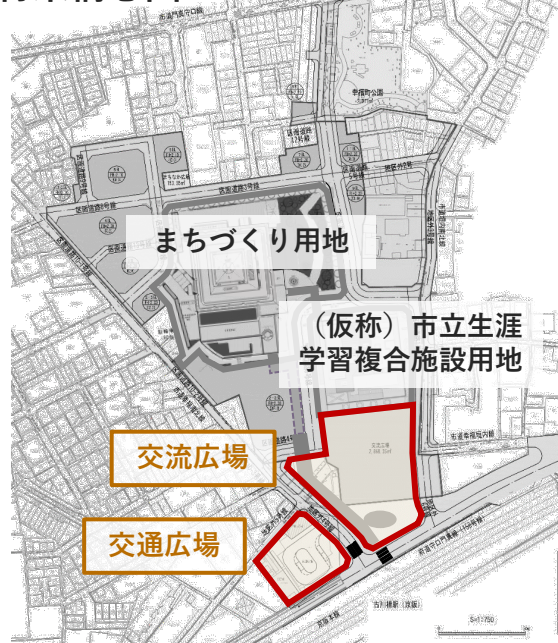
【代表法人】  
住友不動産株式会社

【構成員】  
京阪電鉄不動産株式会社  
ミサワホーム株式会社



# 交流広場・交通広場

## 将来構想図



※この将来構想図は、区域外地権者用地等も含んでおり、地権者の合意状況や関係機関等との協議により変更が生じる可能性がある。

## 【スケジュール】

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
		基本設計	実施設計	整備工事

※本スケジュールは予定であり、変更になる可能性があります

- 交通広場はバスやタクシー乗り場を設置するなどロータリー機能の充実を図る
- 交流広場は日常的な市民の憩いや交流、多様な活動が可能となるオープンスペースを設ける



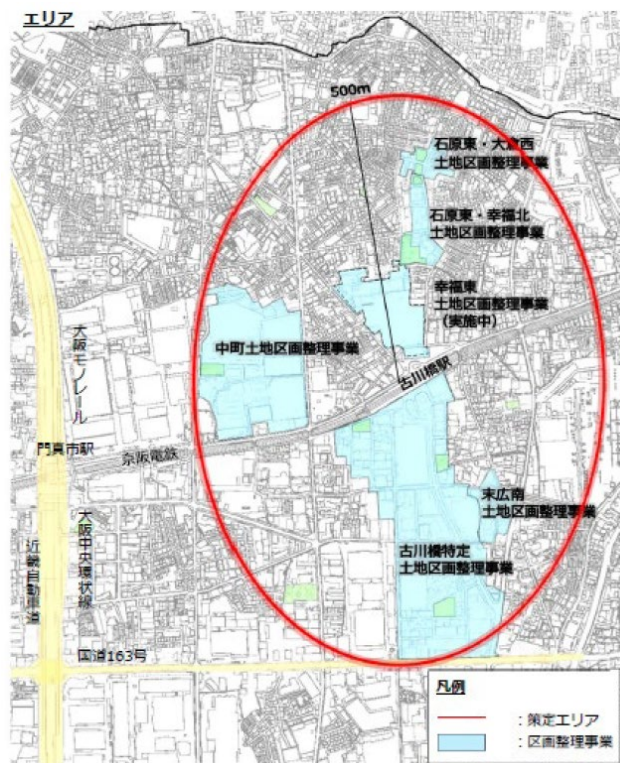
交流広場イメージ（古川橋駅周辺地区未来ビジョン）

# 古川橋駅周辺地区未来ビジョン

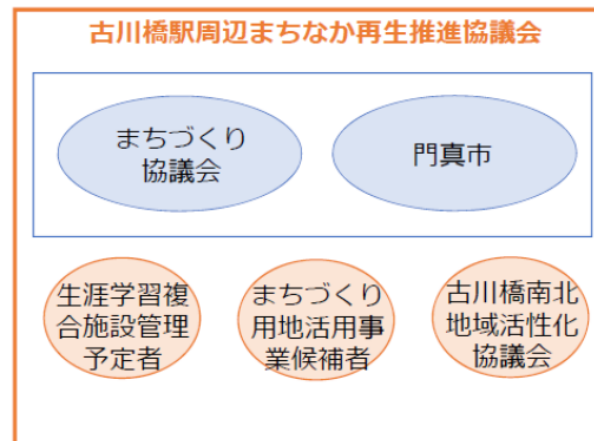
# 古川橋駅周辺地区未来ビジョンとは

- ・ 幸福東土地区画整理事業を契機としたまちの賑わいと交流の創出を目標とし、まちの将来イメージを共有するものとして「古川橋駅周辺地区未来ビジョン」を策定
- ・ 民間と行政が参画するプラットフォームを構築

## ● 対象エリア



## ● エリアプラットフォーム



## イメージ





# 取組方針

## 取組方針①

子ども中心の創発システムによるエリアマネジメントの展開



## 取組方針②

オープンネットワークによる多様なつながりの創出



## 取組方針③

循環型ビジネスや環境教育  
人材育成の仕組み



## 取組方針④

ウォーカブルな空間への転換  
賑わいや回遊性の向上



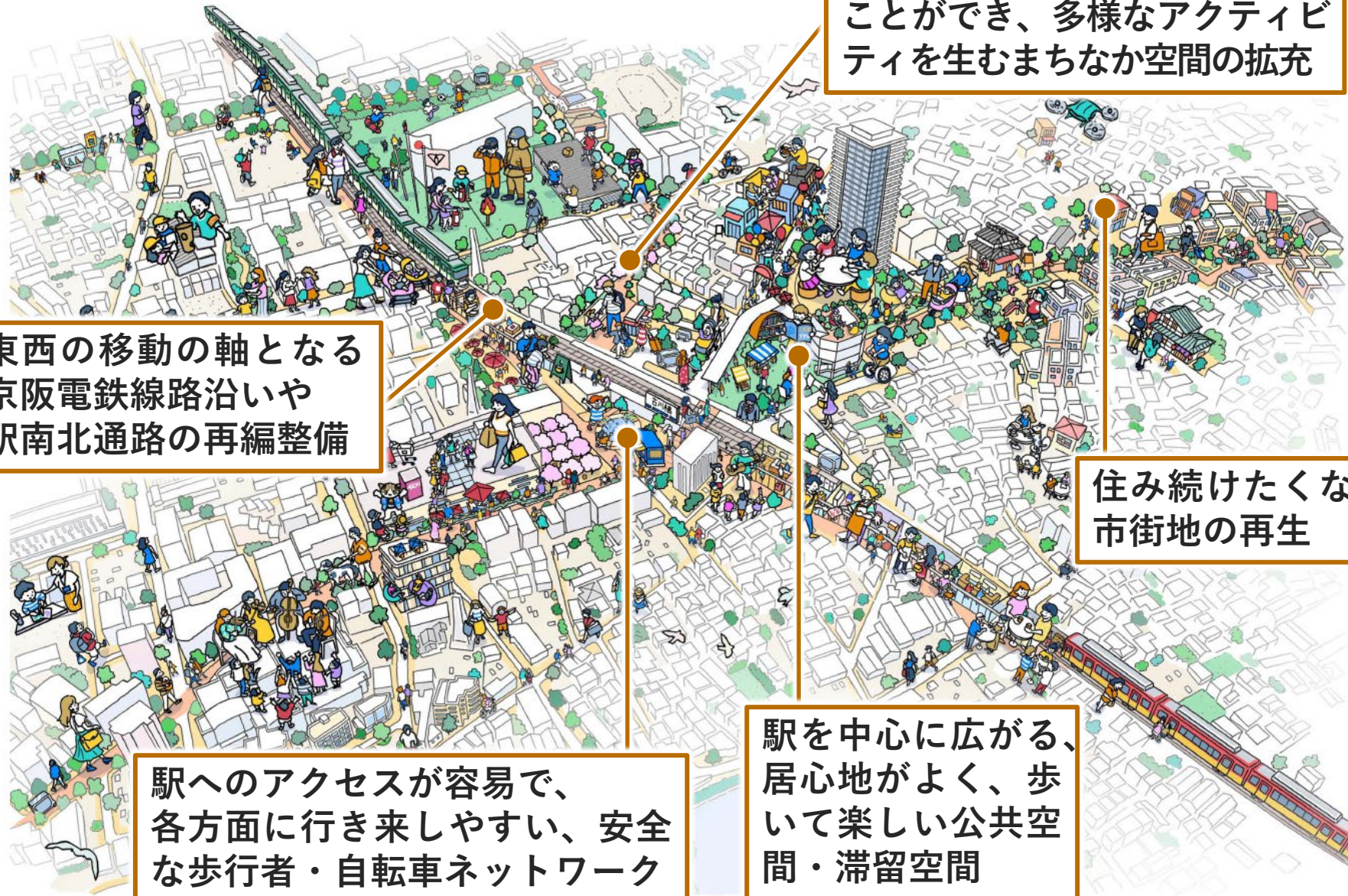
## 取組方針⑤

持続的な暮らし・働き場の  
市街地再生とレジリエンス  
の向上





# まちの将来像イメージパース



子どもも家族も安心して過ごすことができ、多様なアクティビティを生むまちなか空間の拡充

東西の移動の軸となる京阪電鉄線路沿いや駅南北通路の再編整備

住み続けたいくなる市街地の再生

駅へのアクセスが容易で、各方面に行き来しやすい、安全な歩行者・自転車ネットワーク

駅を中心に広がる、居心地がよく、歩いて楽しい公共空間・滞留空間

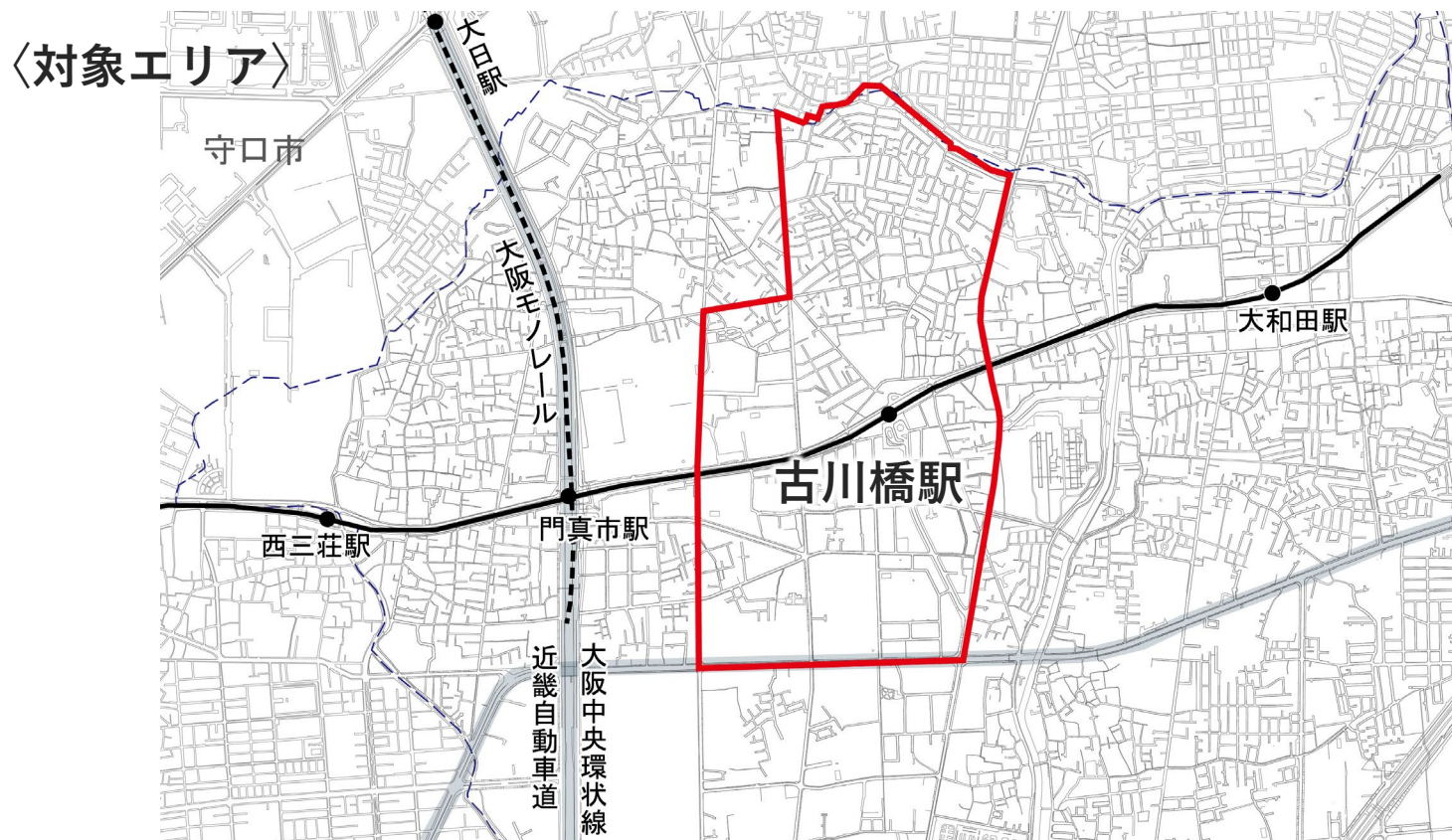


**古川橋駅周辺地区**

**まちなかウォークアブル推進基本構想**

## 基本構想の策定

今ある都市環境・空間を継承しつつ、  
より居心地がよく歩きたくなる人中心の空間の創出や回遊性の向上などを図るために「古川橋駅周辺地区まちなかウォーカブル推進基本構想」を令和5年5月に策定



## 全体コンセプト

多様な場所・アクティビティ・シーンのある  
PLAYFUL（遊び心のある）なまちとして、  
「笑いたえないまち門真」の象徴となることを目指します。



遊ぶ

演奏する

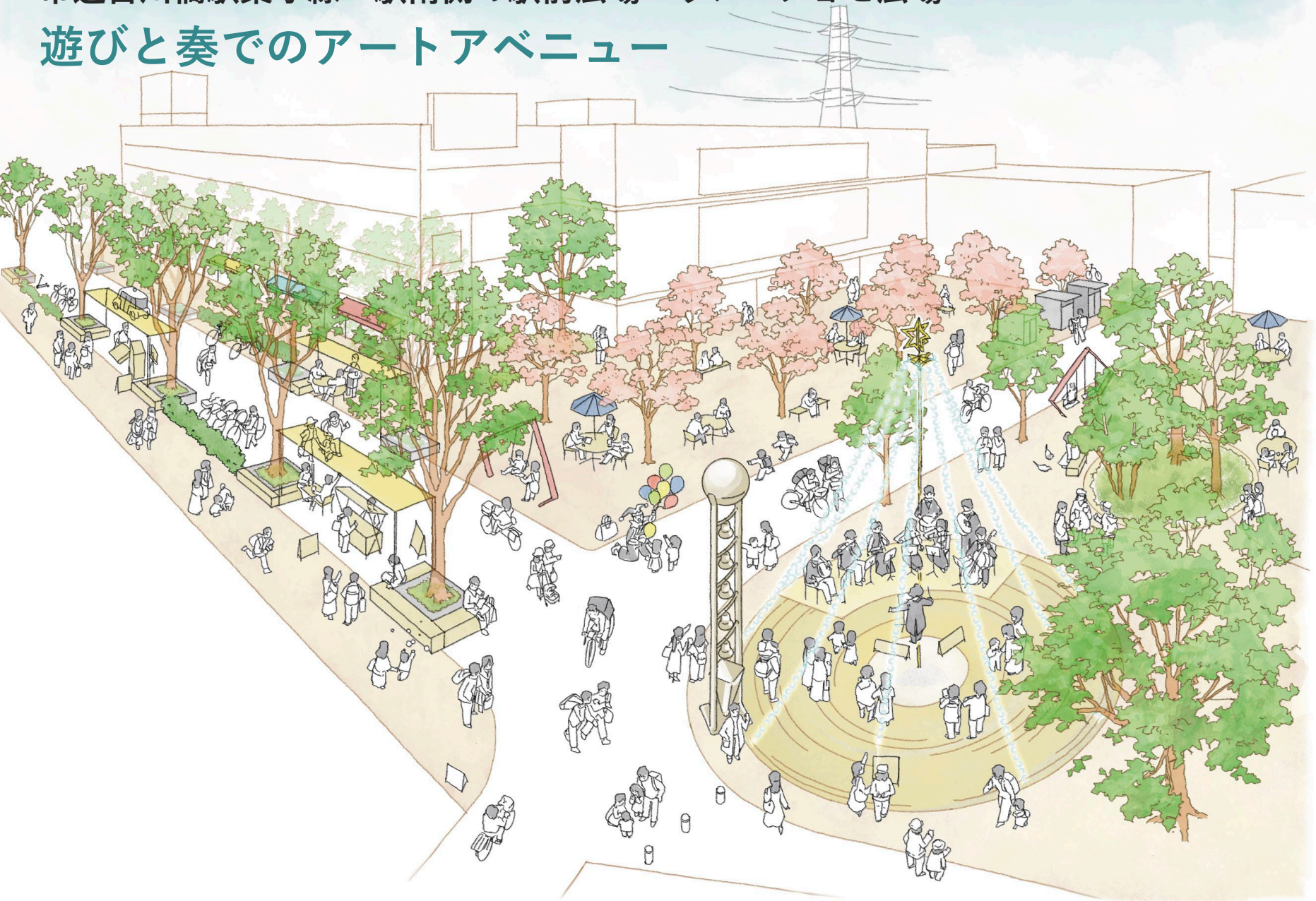
活躍する

ゲームする

参加する

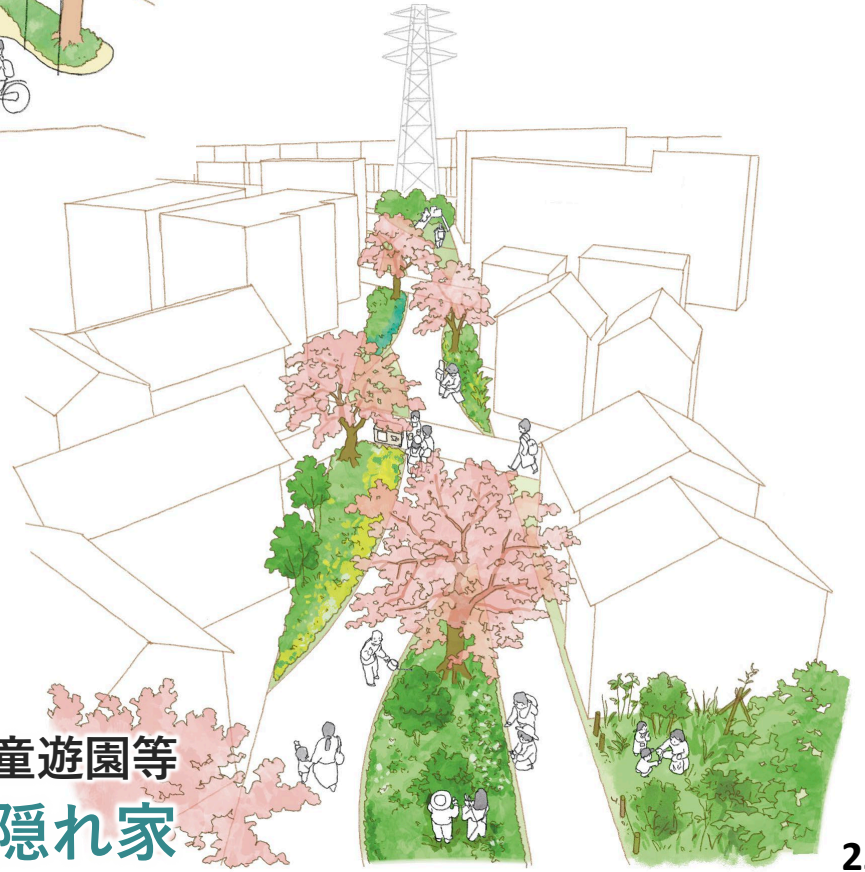


# 市道古川橋駅桑才線 + 駅南側の駅前広場 + サン・ジョゼ広場 遊びと奏でのアートアベニュー





# 末広町北公園+市道末広東西1号線+京阪高架下 挑戦者求むのフィールド



幸福町線架下児童遊園等  
子どもと大人の緑あふれる隠れ家



# 社会実験の様子（令和5年度）

石原町東広場等



古川橋本通商店街



幸福町線架下児童遊園等



### 3. まちづくり事例の紹介

「空き家の利活用～がもよんモデル～」

# 質疑応答・フリーディスカッション



- ・ まちづくりで生かしたい資源
- ・ どんなまちになればよいか